



|            |   |
|------------|---|
| Title      | 日米関係（沖縄返還）10(東郷・スナイダー（十一・八）   外務省外交史料館レファレンス番号：H223564)   |
| Author(s)  | -   |
| Citation   | 平成22年度外交記録公開(4)No.8   公開日：平成23年2月18日   外務省外交史料館管理番号：2011-0023   CD・DVD番号：H22-021                |
| Issue Date |   |
| URL        | <a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43785">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43785</a> |
| Rights     | 外務省外交史料館所蔵資料  |

東印  
ズ  
イ  
ル  
一  
十  
八

極秘

米日局長

2 大臣  
1 次官  
3 参事  
4 法政  
5 下田大使  
6 米日局長

米局長  
参事  
参事  
参事

米日局長  
参事  
参事

東郷、スチーヴンズ 会談 (11月8日午前)

44.11.8

米日局長

同席: 米日局長 (後列) 法務官 参事 参事 (後列)

注: 米局長室

1. 「ス」訪朝報告

(1) 「ス」訪朝、昨日 日帰りソウルに赴き、丁一権 総理と約1時間 話し合った。(ホーク大使同席)

その結果 同総理も大分安心した様子であった。

会談は非常な円滑に行き、固執 - 11月中3法

的向題あり - 大分進歩は採り易い感じであった。

自分より 総理に対し 日本は韓国の安全保障に

201  
① 在米土  
② 米局長  
③ 米局長  
④ 米日局長

つと十分 ~~理解~~ 理解を示したと、交渉の詳  
細は伝えずに、結果をみれば 韓国も理解

安心するであろうと、の=米日局長は述べた。

(2) 次は「ス」訪朝、日本側の対朝アソビ-下張り  
米日局長は、在ソウル大使は巧説明を良し考へ  
ておられ、その対象は米日局長が丁一権総理に  
限らざる、その他下のレベルで交渉するものと述べた  
と、右方 米日局長も日南大使の首脳訪問実現を側  
面援護 <sup>30分</sup> ~~30分~~ すると、述べた。

2. 総理、米日局長 会談等

(1) 局長訪朝、ソウル 日南部長が 6日 木内善紀氏に  
内信した 米日局長 訓令系内容 (米日電 3543号)

に742, 332=412 経済向題を入手したと伝へた。  
NPTは固執 (注) も同意見と述べた、A2

概の有る再持込みを余り持たせらるゝ<sup>セツク</sup>  
その旨を述べた。

(2) 「ス」は、-昨日「ス」と電話連絡したが、文書上  
ついでに「ス」に「ス」に。訓令に接し次第に

討の上 10日(月)の朝に御相談した。と述  
べ、次いで「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に(火  
月04日4-5時とみい)

経手先方と「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に  
困る由)に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に

(水)に半日(月)に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に  
(月)に先着したと「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に

(3) 右お「ス」は、10日の「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に  
余り具体的な詳細に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に

とり詳細関係等から「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に

(4) また「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に  
鳥林 (文書の詳細に入らぬと述べた)

3. 在沖米企業問題

(別途記録。ス」は、昨日の「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に  
受入「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に

政治的重要性を「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に  
に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に

条約局側同席後「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に  
「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に

再び話し合はせると述べた。

4. 「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に

局長が「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に

総理と「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に  
「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に

が「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に「ス」に